4月20日発売号『読売ウィークリー』に掲載された渡辺学長とフリージャーナリスト池上彰氏の対談記事で 池上氏は5月1日(木)公開講座『産業と人間』の講師として来校されます。

世界地図で世界を見る」

年3月にNHKを早期定年退

したのですが、当時「もっと 分で国際情勢などの現場を

て受講したのです。

もちろん渡

開

を知り、これはいい! と感じ 会人向け講座であるアジア塾 た。そのときに拓殖大学の

ご縁があるのです。2005

みて物事を書きたい。そのため

に勉強したい」と思っていまし

も聞かせていただきました。 発経済学や貧困問題の話など 辺先生の開講授業も受け、 池上

じつは、私は拓殖大学に

先駆者として 喬になりたい

でもある拓殖大学学長・渡辺利夫氏と語り合ってもらった。

の若い人材の養成にあった

国際化の時代といわれて久しいなかで、日本の将来を担う人材育成の 在り方が問われている。開発途上国を始めとする国際協力の現場で逞し く能力を発揮する若者を、これからの大学はどのように育てていくのか。 国際情勢に詳しいジャーナリスト・池上彰氏を招き、開発経済学の専門家

自

体が、戦前の台湾における

拓と殖民、

つまり拓殖のた

掲げていますが、

もともと建学

た大学』をキャッチフレーズに 殖大学は、″アジアに顔を向 貢献のための取り組みです。 その2年前から手がけた社会 際学部) を創設したのですが

建学 域貢献する若者を育てる。 0 精神に 立ち返 b 海外に飛躍

ジャーナリスト

いけがみ あきら

1950年生。慶応義塾大学卒業後、1973年NHK入局。報道記者として 活躍し、1994年よりNHK「週刊こどもニュース」でキャスター(お父さ ん役) を務める。2005年3月にNHKを退社し、現在はフリージャーナリ ストとして活躍。著書に『そうだったのか! 現代史』『相手に伝わる話し 方』「池上彰の情報力」など多数。

わ する若者を育てるという精 けですよね。 海外に飛躍して地域 貢

国

際社会

で役に

立

う経験

は

なが

る

きな自信や生きが

池上 家ですが、 渡辺先生は開発論の専 国際学部ではど

ですか?

んな特色を打ち出している

渡辺 際社会における日本の役割 とがあり、 民地統治の人材育成ではない かというイメージを持たれたこ かし冷戦も終わり、 しにくい時代もありました。し 戦後の思潮にあっては、 おっしゃる通りです。 協 6 本大学の特徴を出 力 育 0 を発信 新たな国 11 現場" 植 た する 12 た次第です。

神が、 け継がれてきたのですね。 大学の名前としても受

渡辺

大変ありがとうござい

す (笑)。

アジア塾は、

200

を迎えて国際開発学部

(現・国

0年に拓殖大学が建学百周年

会人向けの講座も展開してき いう考えから、 ポーター』を広くつくりたいと 設です。 大学本来の建学の精神に 度立ち返ろうと決意しまし われるなかで、 その象徴が国際学部 そうした私たちの。サ アジア塾など社 私たちは拓

生きる

YW AD SELECTION

創

W

ま

表えています。開発という文 り日本を知るためには、外国 特させることが重要だと私は えない」ということです。つま 発の現場に生きる実践的な教 しょう。 学」と「地域研究」を融合・連 るのは「自分の顔は自分には見 学」と「地域研究」を融合・連 るのは「自分の顔は自分には見 学」と「地域研究」を融合・連 るのは「自分の顔は自分には見 が発の現場に生きる実践的な教 しょう。

心上 国際教育やアジアに目をます。

経験をもった人材を揃えていの開発現場などで数年の駐在

るために、

教員もすべて海外

した新しい国際教育を発信す深い知識と経験をもつ。こう

日本は変わらない。平均的な学生たちが変わら

ねば

渡辺 私が学生によく話してい 渡辺 私が学生によく話してい るのは「自分の顔は自分には見 るのは「自分の顔は自分には見 り日本を知るためには、外国 あるいは異文化という鏡に日 あるいは異文化という鏡に日 本の顔を映し出す必要がある。 さらに自分の全身を知るため には、一枚の鏡より三面鏡でみ には、一枚の鏡より三面鏡でみ には、一枚の鏡より三面鏡でみ

発を学ぶ者も地域についての

脈のなかで地域を研究し、開

も自らを見ることが必要だとだけでなく、アジアという鏡で

いいるのか、気になるところで 向学心をもつ若者がどれくら きていますよね。一方で、豊か たが、やはり急速に成長して の国は発展するぞと思いまし 読んでいる光景を見ました。こ ちの多くが、お客さんが少ない でベトナムに行った時の話で です。たとえば7年前に取材 暑い昼間、 などを売っている若い店員た すが、どの街でも、みやげもの 見て考えさせられたことは多い いうわけですね。私もアジアを になった日本には、そのような 物陰で熱心に本を



拓殖大学 学長

渡辺 利夫かたなべとしお

1939年生。慶應義塾大学卒業。同大学院博士課程修了。経済学博士。 05年4月より現職。ODA総合戦略会議議長代理。外務省国際協力有職者 会議議長。第17期日本学術会議会員。JICA功労賞。外務大臣表彰。主書 に「成長のアジア 停滞のアジア」(東洋経済社、吉野作造賞)、「開発経済学」 (日本評論社、大平正芳記念賞) など。

渡辺

大学教育の在り方が問

池上 それは貴重な経験になり

他人

自分自身が開発されていく。

、や他国のための開発に携わることで、



池上ぜひこれからも、

世界と

の懸け橋になる若者をたくさ

ん育てていってください。

常にいい顔をして帰ってきま らせています。3割くらいの学 ドレンの世話をさせたり、スモ はるかに強く内在させている う気持ちを我々の世代よりも 生は、誇らしく晴れがましい非 指導に当たる活動などに加わ NGOと組んでストリートチル ステイさせ、現地の信頼できる えばマニラに1か月ほどホーム です。そういう学生たちを、 目にその姿が入ってこないん い人もいるはずなのに、彼らの していると、困っている人も弱 暖衣飽食の日本で普通に暮ら ように見えます。しかし、この ためにいいことをしたい」とい 学生は豊かである分、「他人の 私の見るところ、今の日本の われる点でもありますね。ただ キーマウンテンの子供会の 池上 これからの大学は、その 追究したいですね。 らしい教育の在り方をさらに なければなりませんね。 を身につける」という拓殖大学 る。そうすることによって、教 です。そうした海外研修を行 自分自身が開発されていくの がい、さらには「共生感」を持 に立っている自分の存在を認 ますね。社会や他人のために役 くなります。「公に生きる精神 室の勉強との相乗効果も大き や他国の開発に携わることで、 てるようになるはずですから。 めることによって、自信や生き い、現場で仕事を実体験させ 本当にそうですね。他人

おうに若者の心を発揚させるなければなりませんね。なければなりませんね。はなく、ごく平均的な学生たちに働きかけることにより初めちに働きかけることにより初めちに働きかけることにより初めちに働きかる」といい続けている本は変わる」といい続けているわけですよ(笑)。

拓殖大学 商学部/政経学部/外国語学部/国際学部/工学部〒112-8585 東京都文京区小日向3-4-14 電話(総務課) 03-3947-7111

http://www.takushoku-u.ac.jp/